



楽天イーグルス優勝パレード

計量みやぎ

2014.1.15
編集発行
仙台市太白区長町7-22-23
(一)宮城県計量協会
TEL 246-2466・FAX 247-1490
www.keiryo.net/

震災前より進行しつつあった地域の人口減少の傾向が、震災を機に一気に顕在化し避難した人達が戻って来ない、という地域の未来にとって深刻な課題も見えつつあります。人が減る、という事は消費者が減るといふ事と同時に働く人もいなくなる、という事で特に地域の復興を担う地元の中小企業にとっては致命的とも言える課題を突き付けられているようです。

おかげ様で、宮城県計量協会と致しましては震災で一時的に減少した計量器の定期検査台数もほぼ元に戻りつつあり、泉の宮城

新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様にはお揃いで新春を迎えられた事と心よりお慶び申し上げます。

平成二十三年三月十一日の東日本大震災から二年十ヶ月余りが経過しました。被災地では、ようやく土地や道路のかさ上げが始まりダンブカーが走り回って交通渋滞が起るほどになっていきます。あちこちで大型のショベルカーも動いていて、復興のつち音を身体全体で感じ取る事ができます。

しかしながら、その一方で宮城県の交通事故による死亡者の増加率が全国でワースト1になるなど、悪い方の影響も現れているというのが偽らざる実態でもあります。

建設業を中心とした瞬間的な雇用増に伴って、地元の水産加工業などでは慢性的な人手不足でパートの主婦層さえ集まらず、やむなく注文を断らざるを得ない事態になっていると聞きます。

県産業技術総合センターで行っているコンクリート等の材料強度試験業務の方が復興需要に伴う依頼が増えており、全体として健全な財政運営ができています。これも、日頃からの協会理事さんを始め会員の皆様のご協力とご支援の賜物と衷心より感謝申し上げます。現時点では順調な協会運営も、被災地の復興状況に合わせて取り巻く環境も変わって来るものと思われませんが、どのような状況になろうと国民の生活や産業の基盤を支える計量の重要性は変わるはずもなく、その計量制度を現場で支える協会の使命は重くなる事はあっても決して無くなる事はありません。

毎年、十一月一日の計量記念日直前の土曜日に開催している「みやぎ計量のひろば」も本来は県や市が主催してやるべきものを協会が肩代わりして運営しています。このような計量思想の普及・啓発事業こそ協会の一義的な役割と認識し、一般市民へのアピールのみならず県内製造業を対象とした「ものづくり産業の基本である計量計測講習会」やスーパー・百貨店等でのバック詰め商品の量目検査や郵便局の適正計量管理事業などを精力的に実施しております。

今後、さらなる新たな事業を取り込みながら強靱な体質の協会にして行く所存でございますので、会員の皆様の協会運営へのより一層のご理解とご協力をお願いいたします。

私の年頭のご挨拶とさせていただきます。



会長 鍋島 孝敏

年頭のごあいさつ



将来の発展に向けて

果敢に挑戦する年に



宮城県知事

村井 嘉浩

新年を迎えるに当たり、県民の皆様への御健勝を心からお祈り申し上げます。

昨年は、東北楽天ゴールデンイーグルスが球団創設以来初の日本一に輝き、本県のみならず、東北に夢と感動を与えてくれました。また、春に開催した震災後初の大型観光キャンペーン「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」では、七百万人を超えるお客様をお迎えし、おもてなしをすることができました。これも、県民の皆様への御理解、御尽力の賜物と考えております。

さて、東日本大震災から二年九か月余りが経過しました。この間、多くの方々からの御支援のもと、全力で復旧・復興に向けて取り組んでまいりました。特に、昨年は、「宮城県震災復興計画」（平成二十三年十月策定）で定めた十年間の道筋のうち、生活基盤や公共施設を復旧させる「復旧期」の最後の年に当たり、その取組を加速させてきたところです。

今年、「宮城県震災復興計画」における「再生期（四年間）」の最初の年になります。「再生期」においては、復旧・復興を一層加速させるとともに、「宮城の将来ビジョン」に掲げた将来像を見据えて、本県が発展していくための様々な種をまき、各地で芽吹くよう、医学部

の新設や仙台空港の民営化、広域防災拠点の整備など、新たな取組にも挑戦していかねければなりません。そのため、「迅速な震災復興」、「産業経済の安定的な成長」、「安心して暮らせる宮城」、「美しく安全な県土の形成」を政策推進の基本方向に掲げて、県民の皆様が

年頭のご挨拶

謹んで新春のお喜びを申し上げます。日頃より仙台市の計量行政を始め市政各般にわたり、ご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、あの東日本大震災から三年になるうとしていますが、本市の復興に向けた取組みは、まさにこれからが正念場です。被災された方々の暮らしの再建が何よりも優先されますが、復興の先を見据えた地下鉄東西線を中心としたまちづくりを加速させ、人もまちも元気に輝く新たなふるさとづくりを目指して、果敢に挑戦を続けていくところです。折しも、来年三月には本市において国連防災世界会議が開催されますので、震災の経験と教訓を発信し、東北の復興のアピールなどを積極的に行っていくこととなっております。

仙台市市民局

市民協働推進部消費生活センター

所長 吉田幸江

復興を実感し、経済成長と豊かさを感じていただけるような取組を進めてまいります。

私は、昨秋に行われた知事選挙において、県民の皆様の御支持をいただき、引き続き県政を担わせていただくことになりました。本県が創造的復興を成し遂げ、生まれてよかった、育つてよかった、住んでよかった、と思える宮城県となるために、今年も果敢にチャレンジしてまいります。引き続き、県民の皆様の信頼に応えられよう、しっかりと前を向き、県政運営の先頭に立ち、皆様と共に進んでまいりたいと考えておりますので、より一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

一方、復興が進むにつれ、市民生活における安全安心の確保についてもその重要性が高まっております。本市においては、暮らしの中の計量の重要性を考慮し、昨年の四月より、計量担当部署を、経済局から、消費者にとつてより身近な窓口となる市民局の消費生活センターに移管したところです。貴協会におかれましては、本市の指定定期検査機関として円滑な計量行政を支えていただき、安定した計量検査の実施にご尽力いただいていることに改めて感謝申し上げます。引き続き、市民生活の安全安心の確保や健全な産業活動の推進のため、ご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のおますますのご健勝とご繁栄をお祈りして年頭のご挨拶とさせていただきます。

迎春

あけましておめでとうございます

会長	鍋島孝敏	理事	新井田匡彦
副会長	千葉信弘	理事	江刺茂
副会長	笠原秀	理事	阿部孝博
顧問	石川光次郎	理事	高橋栄一
顧問	渡辺博	理事	工藤隆司
顧問	亀山弘樹	理事	屋貝尚孝
顧問	鍋島綾雄	理事	熱海周一
専務理事	草刈謙一	理事	南部満
常任理事	菅原功	理事	安齋敏行
常任理事	加藤啓二	理事	伊瀬知衛
常任理事	斎藤孝司	理事	鈴木昇二郎
常任理事	武田巖	理事	佐藤正使
常任理事	松原大介	監事	大湯澄
常任理事	嶺岸優	監事	和田剛和
理事	三瓶総一	監事	加藤昌宏
理事	松本康成		

(敬称略)

平成二十五年度 東北・北海道計量大会
第六十二次 東北六県北海道計量協会連合会総会

平成二十五年度東北・北海道計量大会及び第六十二次東北六県北海道計量協会連合会総会が、十月十日に福島県会津若松市「御宿 東鳳」を会場に開催された。大会には、国並びに各道県の計量行政機関、計量団体、会員約二百三十名あまりが集い、開会宣言の後、主催県の東北六県北海道計量協会連合会紺野道昭会長から、歓迎の挨拶があり、続いて来賓祝辞と計量思想の普及啓発に尽力された七名の方々が、計量功労者として表彰された。本県からは(株)タツノ東北支店の齋藤孝司氏が表彰された。



平成25年度 東北・北海道計量大会(福島県)

大会宣言

計量は、経済の発展、社会生活、文化の向上、環境の保全の基本となるものである。我々は、先人が築いた偉業を引き継ぎ、その使命の重要性を自覚し、住みよい豊かな社会の構築を目指し、計量人としての決意を新たにその責務を遂行しなければならない。今日、計量界をとりまく諸情勢は、国際化、地方分権、規制緩和と大きく変革しており、このような情勢に対応する確かな計量の推進をはからなければならない。また、2年7カ月前の東日本大震災を受け、今後はエネルギーの節約と原子力発電に代わる資源の有効活用により、社会生活を守りながら地球の環境保全に尽力しなければならない。我々は、現状の認識と理解により計量に関わる者として、正確な計量計測による計量の安全確保のため、常に使命感を持ち、「暮らしを守る確かな基準……計量・計測」「地球環境と生活を守り、はかることはすべての基本です」をスローガンに掲げ、これを達成するための最大限の努力を重ねていくことを決意し、本大会の名において宣言する。
平成 25 年 10 月 10 日

東北・北海道計量大会



計量功労者表彰 齋藤孝司氏

大会に引き続き、第六十二次東北六県北海道計量協会連合会総会が、会則に従い開催県の紺野会長が議長に就き、前年度開催地であった岩手県の御札を受けてから、議事に入った。

各県からの提出議題は次のとおりであった。

議題一 計量記念日事業について (青森県)

議題二 放射線測定に係る規制の要望について (山形県)

議題三 放射線測定に係る規制の要望について (宮城県)

議題四 古紙回収ポイントシステム の質量計の定期検査について (宮城県)

議題五 連合会総会の次期開催地について (福島県)

議題一は、計量思想普及の活動が業務多忙で、思いどおり進んでいない青森県から、各道県の状況紹介の依頼であった。

青森・福島 の二県が代表し、行政側の予算削減などにより協体制度が弱くなり協会の負担が増大している実情と、それでも頑張っている活動報告があり、議長は、各道県の情報交換を密に計量普及啓発の活動を構築していくこととまとめた。

議題二と三は同一議題なので、一括審議とし山形県が代表して、昨年の本総会決議で国に要望した放射線測定 の計量法による規制の進捗状況を伺った。

経済産業省計量行政室からは、前回同様メリット、デメリット論が出され、法規制は制約的になり普及活動を阻害することになるので総合的判断が必要である。事業者が自ら校正制度を活用し、ま

た適切な測定器を選び、保守点検を行うのが望ましく、強制力の伴った計量法の規制は、現状適切でないという回答があった。

また、日本計量振興協会から、この要望を受け、放射線・放射能の測定に関する講習会を開催する予定である紹介があった。

※平成二十五年十二月十一日福島県で開催された全国から百名以上の聴講者があった。

議題四は、エコと実益を兼ね、古紙の重さを金銭等に換算するポイント制度を導入したりサイクル回収システムで、これに使用する質量計は、計量法の取引にあたり検定検査が必要ではないかという議論が、平成二十二年頃から行政機関の諸会議で検討されているが、まだ方向性が示されていない現状、ブロック内の指定定期検査機関の足並みをそろえるためにも、如何に対応すべきか、行政室の指導を本県から求めたものである。

これについて行政室からは、ポイント制でも取引に当たるので検定検査が必要であると認識している旨の回答があった。議長は今後の推移を見て、行政機関の指導を受けたいとまとめた。

最後の議題は、本総会の次期開催地は北海道(札幌市)とすることと決定され、総会を終了した。

総会後は、NHK大河ドラマ「八重の桜」から「新島八重と会津戦争」という演題で、そのドラマや「天地人」の時代考察、原作に関わった、ご当地の石田明夫氏のドラマ作成の裏話や放映されない新島八重の真相を和やかに語る講演がありました。

各道県の交流会は、白虎隊の詩吟・演舞など会津若松の夕と、飲食の味を楽しみながら歓談しました。



鶴ヶ城(会津若松城)

翌日の視察研修は、NHK大河ドラマ「八重の桜」のゆかりの地を訪ねて、鶴ヶ城(会津若松城)を訪れました。幕末の動乱期の戊辰戦争での白虎隊の悲劇の錦絵や、新政府軍の大砲でボコボコにされ今にも崩れ落ちそうになった鶴ヶ城の写真などの資料を見ながら登城し、ふっと天守閣に立つと、眼下には一転何事もなかったように、のどかな会津若松市内の風景が広がっていました。

また、当時は鶴ヶ城の西隣に会津藩の学校である「日新館」がありました。(現在は河東町に復元されています)この学校は、江戸時代の財政・食糧難の時に、会津藩の家老、田中玄宰(たなか はるなか)が会津の人材育成のために建てられ、全国三百藩校の中でも規模内容共に有数と謳われ、また食事も出し、日本で初めて学校給食を始めた所ともいわれており、幕末には「白虎隊」をはじめとする多くの優秀な人材を輩出しました。

この学問の殿堂で『ならぬことはならぬ』という会津魂を育んだそうです。何か計量に通じる響きが伝わってきます。



計量のひろば



今年の『みやぎ計量のひろば』は、新環境都市あすと長町のJR長町駅前広場にある「長町駅前プラザ」で、宮城県・仙台市・協会の共催で行いました。

会場のプラザは室内を使用できるということで、“棒はかりを作ってみよう”・“長さを当てよう”コーナー等も設けました。

当日は、台風接近で実施が危ぶまれましたが、直前に逃げて行ったので何とか開催の運びとなりました。

小雨の中、会場には、駅やバス乗降客の方々や、買い物等に訪れた親子さんが訪れ、計量とのふれあいを楽しんでもらいました。

平成25年
10月26日(土)
11:00~
14:00



長町駅前プラザ

棒はかりを作ってみよう!!

棒はかりってなあに?上手に出来た!



重さ・長さ当てコーナー

アメを111gぴったり計ろう



サイコロの目数の長さにテープを切ってみよう

ライフライン計量器

水道・ガスメーターの中はどうなっているの?



家庭用はかりの無料検査



電気のしくみ



放射線測定器の説明



経済産業大臣表彰 鍋島孝敏会長

平成二十五年十一月一日の計量記念日に、ホテルインターコンチネンタル東京ベイで開催された計量記念日全国大会で、当協会の会長である鍋島孝敏氏が、(一社)日本計量振興協会長の推薦により、計量関係事業の発展、計量器の発達・改善、計量思想の普及等の計量功労者として、経済産業大臣から表彰されました。おめでとございます。

鍋島会長
経済産業大臣表彰
授与

優良事業所視察研修会

平成25年11月
in 栃木・群馬

- 東邦車輛
- 大阪シーリング印刷

東邦車輛 特装備車



平成25年度の優良事業所視察研修は、昨年度参加者のアンケートの希望を受けて、11月に群馬・栃木県へ向けて会員18名で出発しました。

途中で、ご当地のコクのある醤油味の佐野ラーメンで準備を整え、最初の事業所、東邦車輛(株)群馬製作所の工場を訪れました。

トレーラーやタンクローリ等の特装車を製造する工場は、群馬県鞍掛第三工業団地の11,000㎡という広大な敷地の中にありました。東急車輛(株)で発足し現在は新明和工業(株)の傘下に入った工場概要を受けた後、タンクローリ等の製造工程を視察させて頂きました。分厚いアルミ板を丸め、繋ぎ合わせは熟練した溶接技術者が行っていました。また、ローリの積載量を計る計量尺は計量法の検定が必要で、群馬県計量検定所の方が検定しているそうです。

初日の視察の後は、栃木県の鬼怒川温泉で会員同士の意見交換と懇親を深めました。

2日目の視察先は、隘路の続く山懐にある栃木県宮川治第一発電所です。国で建設した五十里(いかり)ダムの水で水力発電を行っている発電所は、昭和29年建設し昭和31年発電を開始した歴史のある発電所で、最大15,300kW(常時840kW)の発電を行うそうです。原子力発電の稼働が停止され、自然エネルギーが重視されるようになってきた今日、再び脚光を浴びることになるでしょう。

次の視察先は、当協会役員の大阪シーリング印刷(株)那須第一工場です。ペットボトル・パッケージ商品などに貼られている特殊印刷ラベルを作成している会社で、その製品は私たちの周りにはもちろん国外にも供給されているそうです。早速ラベル印刷作業を行っているラインを視察させて頂きました。自動ラベル印刷機で目にも止まらぬスピードで二重三重四重と色を重ねたラベルが印刷されていきます。印刷後のチェックも同様の早さでカメラチェックが行われていました。

視察終了後立ち寄った林檎庵で、那須御用邸の菓子を買って、仙台に帰ってきました。

栃木県 五十里ダム(国直轄)



大阪シーリング印刷 商品ラベル



大阪シーリング印刷那須工場前



宮城県計量検定所からの

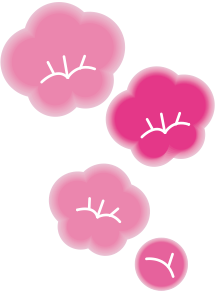
お知らせ

今年度中元期の立ち入り検査の結果についてお知らせします。商品量目立ち入り検査の結果は、検査件数二十件、検査個数四百十七個。うち量目不足七個で不適正率は1・7%でした。量目不足の主な原因は、計量時における風袋引きの設定ミス等人為的なもので正しく設定すれば量目不足の大部分は防げるものでした。

また、同時に行った「ばかり」の使用状態の検査の結果は、検査件数十六件、検査個数八十三個を行い、うち不適正個数(水平・零点)も、不正個数(定期検査未受検)もなく、良好な結果でした。

今後、特定計量器(タクシーメータ)・計量証明事業所・届出修理事業者の立ち入り検査を実施する予定です。

これらの検査体制を強化するとともに計量思想の普及啓発に努めてまいります。



平成二十六年度

定期検査

実施区域

計量法第十九条(定期検査)及び第二十條(指定定期検査機関)に基づく、仙台市の定期検査は、次のとおりです。

- 泉区、宮城野区、若林区



平成二十六年度

特定計量器代検査

実施区域

計量法第十九条(定期検査)及び第二十五條(定期検査に代わる計量土による検査)による検査区域は次のとおりです

- 岩沼市、大崎市、角田市、気仙沼市、白石市、名取市、東松島市
- 伊具郡、牡鹿郡、加美郡、遠田郡、本吉郡、亶理郡

※検査対象の事業所に対しては、当協会より事前に検査日程等をご通知致します。

また、検査を受けていない事業所で、取引証明に使用されている計量器をお持ちの場合は、受検されますようよろしくお願い致します。(受検希望や問い合わせについては、協会へご連絡下さい)

タクシーメーター

装置検査用基準器の

リニューアル

宮城県計量検定所では、毎年県内約五、五百台のタクシーメーターの走行検査を行っています。検査用基準器の経年劣化と四輪駆動車、F車対応のため、走行検査機をリニューアルしました。メーカでは全国三番目となる新型機械に期待が集まります。



仙台市

消費生活情報誌

ゆたかな暮らし

本年度から、仙台市の計量行政担当部署が消費生活センターへ移管され、同センター発行の消費者への情報提供誌、「ゆたかな暮らし」の十一月号に「ぐらしの中の計量」と題して、スーパーマーケットの商品量目検査や電気メーターの有効期間の立入検査等の計量行政の活動が紹介されました。



第三回

測定基礎研修会

開催!

県内製造事業者等を対象に製品の開発・生産に欠かせない「測定」について、その基礎知識を学ぶ研修会を、昨年・一昨年と好評を得たので、本年度も(一社)みやぎ工業会の共催を得て、第三回目を開催します。

会員はもちろん、他の県内企業の若手職員を中心に多数参加を呼びかけ、ものづくりのみなさんの応援をいたします。

【開催日時】

平成二十六年一月二十四日(金)

【研修会場】

仙台アエル

【定員】

三十名

【研修カリキュラム】

- 測定の基礎
 - 測定器の基礎知識と使い方
 - 測定器の管理
 - 測定の「べからず集」、失敗例
- ※ノギス・マイクロメーター等の実習

協会便り

東日本大震災の復旧も進み、協会の検査業務も平年並みに戻りつつあり、計量に関する問い合わせも多くなってきました。

また、泉分室のコンクリートや鉄筋の工業材料試験も昨年の百五十%よりもさらに増えており、新人職員の教育も大変とのこと。さらに本年は、昨年に引き続き八人目の計量士が誕生し、より充実した計量活動が実施出来ると思っておりますので、会員各位の皆様よろしくお願いたします。

編集後記

東北楽天ゴールデンイーグルスが初の日本一になり、東日本大震災の復興に全力を挙げている東北にさらなるパワーを与えてくれました。

流行語大賞三周年で初めての四者同時入賞。「おも・も・て・な・し」は、先にデステイネーションキャンペーンで村井宮城県知事が、全国の方々を暖かく迎えようと呼びかけた言葉でした。時と場所によっては流行になるものです。「じゃえじゃえ」

アベノミクス効果で景気好転の期待が集まる今年、注意しなければならぬのが消費税値上げによる便乗値上げの「倍返し」

当協会の鍋島会長は、計量は社会生活の基盤で、縁の下の力持ちということではだめだ。もっと表に出て活躍しようと呼びかけています。企業の自主計量管理の促進や正しい計量豊かな暮らしを積極的にアピールしましょう。「今でしょ!」と。

